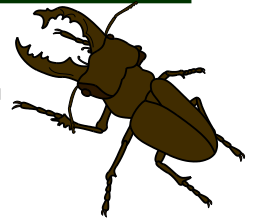


本梅小だより 2学期始業号

令和2年8月18日

亀岡市立本梅小学校



「希望のもてる2学期に」

本日第2学期を始業しました。コロナウイルスの勢力も弱まる気配がなく、加えて熱中症の搬送者が増え、多くの重症者も出ています。お盆を過ぎて、本梅の朝は少し暑さが和らいだようですが、下校時は特に心配です。子どもの体調と暑さ指数を確認しながら出発し、できるだけ下校の見守りができればと思います。ご家庭でも引き続き毎日の健康観察をお願いするとともに、心配な日は、道中、迎えに出ていただくなど、可能な限りご協力いただければ幸いです。

さて、例年より10日も早いスタートです。短い夏休みでしたが、子ども達は、何か一つでもドキドキ・ワクワクするような希望もてる生活体験や活動ができたでしょうか。

私は、職員2人に付き添ってもらい学校の裏にある「数掛山（かずかけやま）」という山に登りました。というのも、先日、本校元校長の山下先生が学校に来られ、6年生の社会科で明智光秀公を身近に取り上げた授業ができないかという相談がありました。社会科が専門の山下先生はこれまでも数々の地域に関わる歴史や文化を教材化し実践してこられた先生です。そして、丹波攻略の道筋となった亀岡西部地域についての調査もされ、一度、数掛山に登り城跡が見られないだろうかというお話でした。校舎すぐ後ろに丸く見える山には森氏の居城「滝ヶ嶺城」が、その後方高くに波多野秀親の居城「数掛山城」があったそうです。すぐに自治会長さんや安全協力員さんに相談し、山頂までの道を尋ねましたが、今はもう上がった人はほとんどいないし、道もないということでした。

それでも、修学旅行も中止となり、何か子ども達が体験できる学習はないかという歴史とは別の視点も持ちながら、下見のつもりで道のない急斜面をひたすら進みました。方向が正しいかどうか心配な中、もう引き返そうかとあきらめかけたその時、たくさんの大きな岩とともに城跡を思わせる広場のような空間にたどり着きました。「やっ

た！城跡だ！」達成感がさわやかな風とともに吹き抜けました。立派な角を持った大きな鹿がすぐ近くを駆けていきました。私達を出迎えてくれたのでしょうか。

そして、山に登るまでには興味深いお話をたくさん聞くことができました。山の中腹には学校林があり、切り出した木材は昔の木造校舎の建築にも活用され、その苗は子ども達が授業で植



当時児童が植林した学校林

林したそうです。それから、まつたけが毎日40kgもとれ、美空ひばりさんも食べにこられた話や三ヶ村や西加舎を中心に本梅村が所有する山林の壮大さが村を大変豊かにしていた話など、戦国時代以外の本梅の歴史も知ることができました。これが、私の夏休みの唯一のドキドキ・ワクワクする希望のもてる体験でした。

道のない道を子ども達といっしょに行くのは困難ですが、何か忘れられない体験学習ができないだろうかと考えています。制限の多い中、できる限りドキドキ・ワクワクする「希望のもてる2学期」になるよう全職員で知恵を出し合って、本梅の教育を、希望をもって進めていこうと強く思いました。

校長 藤田哲也



西加舎から数掛山を望む